

平成 26 年度 第 3 回新潟市環境審議会

議 事 概 要

1 日 時 平成 26 年 12 月 25 日 (木) 午前 10 時から

2 会 場 新潟市役所 本館 6 階 第 4 委員会室

3 出席者 別紙名簿参照

4 事務局 中澤環境部長、松田環境部次長、吉田環境部次長、三富環境政策課長 小林環境企画係長ほか

<p><配布資料></p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次第 ○ 座席表／出席者名簿 ○ 資料 1－1：第 3 次 新潟市環境基本計画構成図 ○ 資料 1－2：「第 1 部 基本構想」現行計画からの主な変更点 ○ 資料 1－3：新潟市環境基本計画（素案）「第 1 部 基本構想」 ○ 資料 2－1：「第 2 部 施策の展開」現行計画からの主な変更点 ○ 資料 2－2：新潟市環境基本計画（素案）「第 2 部 施策の展開」 ○ 資料 2－3：「第 2 部 施策の展開」一覧表 ○ 別紙 1：新・新潟市環境基本計画策定のためのアンケート結果報告書 ○ 別紙 2：にいがたの環境未来を考えるワークショップ 実施報告書
<p>< 議 題 1 ></p>	<p>新潟市環境基本計画（素案）第 1 部「基本構想」について</p> <p>【資料 1－1 から資料 1－3 に基づき説明】</p>
<p>千 葉 会 長</p> <p>三 富 課 長</p>	<p>資料 1－3 3 ページ「第 2 節 2 計画の基本的視点」について</p> <p>「地域資源」という文言が出てきているが、市民が見たときにイメージしにくいのではないかと。具体的にどういったものをイメージしているか。</p> <p>新潟市総合計画において地域資源を活かしたまちづくりを政策の柱として位置付けており、メインとなるものは「田園環境」であると考えている。具体的にはバイオマス資源であるもみ殻や間伐材、グリーンツーリズムなどが地域資源として挙げられる。地域資源の内容が分かりやすくなるよう、具体的な例示を追記したい。</p>
<p>波 多 野 委 員</p> <p>三 富 課 長</p>	<p>資料 1－3 1 ページ「第 1 節 2 計画改定の背景」について</p> <p>環境モデル都市としての取り組みについて、具体的に何を求められているかわからない。目標数値などを入れてはどうか。</p> <p>環境モデル都市の行動計画では、平成 26 年度からの 5 年間で CO₂ 排出量を 15 パーセント削減することを目標にしている。「2 計画改定の背景」については、他の項目と併せて、具体的な数値等も含め、記載内容を充実させ、改めてお示ししたい。</p>

<p>古島委員</p> <p>三富課長</p>	<p>資料1-3 5ページ「第3節 3 新潟市総合計画との関連」について</p> <p>施策に「健幸都市」とあるが、都市像にある「環境健康都市」との違いがわからない。また、計画内には専門用語も多く入っているので、市民が分かりやすいよう、注釈などをいれたらどうか。</p> <p>新潟市では、スマートウェルネスシティの推進を行っており、ここでは、健康づくりに励むことで幸せになりましょうというコンセプトのもと、この施策においては、あえて「健幸」という文言を使っている。このほかにも、「低炭素」や「3R」など、まだまだ市民にはなじみが薄い文言もあるかと思うので、そういった言葉には注釈を振り、用語の説明を加えていきたい。</p>
<p>千葉会長</p> <p>小林係長</p>	<p>資料1-3 8ページ「第4節 3 施策の大綱」について</p> <p>「生物多様性の保全」の中に「地球温暖化防止などの推進」の項目があるが、地球温暖化の問題は、生物多様性に限らず広い範囲に影響する問題であるので、ここに記載することが適切ではないのではないかと。</p> <p>生物多様性地域計画においても地球温暖化による生物多様性への影響を重く見ており、地球温暖化防止の推進を取組の柱としても位置付けている。このため、環境基本計画においても施策の展開の柱として位置付けているが、この項目は「低炭素社会の創造」の再掲という形にし、具体的な施策の展開は「低炭素社会の創造」の項目で展開していく。</p>
<p>菅井委員</p> <p>三富課長</p>	<p>資料1-3 8ページ「第4節 3 施策の大綱」について</p> <p>「快適な生活環境の保全」の「保全」という言葉は、「現在の良好な環境を保ち、推し進める」という意味と解釈しているが、環境には現在良好でないものもあるかと思うので、「保全」という文言は適切ではないのではないかと。他の施策では「創造」という言葉を使っているが、「快適な生活環境の保全」についても、「保全」では物足りないのではないかと。</p> <p>ご指摘のとおり、良好でないものに対する施策もあるかと思うので、「快適な生活環境の創造」に変更させていただきたい。</p>
<p>志賀委員</p> <p>三富課長</p>	<p>資料1-3 8ページ「第4節 3 施策の大綱」について</p> <p>「生物多様性の保全」の「保全」の使い方について、生物多様性においては、「保全」の他に「保護」という考えもある。人の利活用を前提にしたものが「保全」で、生きものの視点に立ち、生きものを守るのが「保護」であると考えている。この「保全」と「保護」の使い分けについて市はどのように考えているか。「保護」という考え方も環境基本計画に盛り込んでどうか。</p> <p>地域資源である田園環境は人だけのものではなく、市の鳥に選定されたハクチョウなどを守っていくことなどを考えると、「保護」という言葉も必要かと考えるが、別途、生物多様性地域計画を平成24年3月に策定しており、そこで整理している「保全」という文言を確認したうえで、利用を検討したい。</p>

松田部次長	「生物」や「植物」に対しては「保護」、それが生育する土地や自然などの環境については「保全」という使い分けを現行の環境基本計画の中でしている。次期計画においては動植物や生育環境をまとめて対象にしているため、「保全」という文言を使用しているが、中身について具体的に説明する際に、「保護」という文言を使えばいいのではないか。
志賀委員	「生物多様性の保全」という言葉は市民にも浸透していると思うので、中身の説明をする際に使い分ければ、使用することは問題ないと考える。

資料1-3 6ページ「第4節 1 環境基本計画が目指す都市像等」について	
中平委員	新潟市総合計画が新潟市環境基本計画の上にあるということだが、環境基本計画が推進する政策に位置付ける「人と環境にやさしいにぎわうまち」の「にぎわうまち」と環境との関連が理解できない。大綱において定める「施策の展開」において「にぎわうまち」をどう表現されているか。「にぎわうまち」をどのようにとらえているか。どの施策に反映させているか。
三富課長	「新潟市総合計画との関連」において新潟市総合計画の都市像、政策を記載しているが、「地域資源を活かすまち」及び「人と環境にやさしいにぎわうまち」は、環境の切り口のみを示した政策ではなく、まちなか再生や観光などの視点が入ったものであり、直接環境政策のみを謳ったものではないため、これに関連する施策を環境の切り口から整理したものが、今回策定している環境基本計画である。
中平委員	「人と環境にやさしいにぎわうまち」において言う「環境」は、にぎわうまちにするために「環境」を良くするのか、にぎわうまちの実現に際しては「環境」に配慮するのか、どちらの視点から、ここでいう「環境」をとらえればいいのか。
三富課長	次期環境基本計画においては、「計画の基本的視点」に示すとおり、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現に向けた総合的な施策の推進に加え、超高齢社会、人口減少社会や地域経済などへの貢献も視点として位置付けているため、中平委員の示す両方の切り口から環境をとらえる必要があると考えている。
竹石委員	環境において「にぎわう」という言葉はなじまないと考える。あえて「にぎわうまち」という言葉を使わなくてもよいのではないか。 また、「低炭素」という言葉は、子ども達に説明する言葉としては難しいのではないか。分かりやすい言葉で表現してもらいたい。「健幸」という言葉についても、大部分の市民は「ケンコウ」からは「健康」をイメージするわけで、「健康で幸せな都市づくり」という言葉であれば伝わりやすい。「健幸」という造語を計画で使用するべきではない。
菅井委員	「にぎわう」という言葉に同じく疑問を感じている。政策への推進に向けた取り組みの評価方法を検討することで「にぎわう」という言葉の使用の可否を議論できるのではないかと思う。
中村委員	「人と環境にやさしいにぎわうまち」は、総合計画の政策であり、環境基本計画に加え、その他の施策と合わさって推進していくことで達成されるものと理解したが、「新潟市

<p>三 富 課 長</p> <p>中 澤 部 長</p>	<p>環境基本計画「施策の大綱」からは目指す政策を環境基本計画のみで実現するように読み取れるので、総合計画との整理がわかるように、政策と施策の間に説明を加える等、誤解を与えないような工夫が必要と考える。</p> <p>いただいた意見を踏まえ、事務局で記載の方法等について検討させていただき、改めてお示ししたい。政策で掲げる「人と環境にやさしいにぎわうまち」というフレーズは、新潟市総合計画で定めているものであるため、変えられないということもあり、読み手に誤解が生まれず、流れが理解しやすい形になるよう修正させていただく。</p> <p>「にぎわうまち」という言葉の要素として、人口減少時代における都市の継続性という課題がある中、新潟市総合計画では新潟の魅力の一つに環境を位置付け、環境を推し進めることで、人の集まるにぎわいのあるまちにしていくということがあるが、総合計画で定める文言がすべて環境基本計画内でも当てはまるか難しいところもあるので、記載については再度検討させていただきたい。</p>
<p>松 岡 委 員</p> <p>三 富 課 長</p>	<p>資料 1-3 8 ページ「第 4 節 3 施策の大綱」について</p> <p>「低炭素社会の創造」「(1) 田園環境の保全・持続可能な利用」に記載されている「③ バイオマス資源の持続可能な」後の文言が抜けている。</p> <p>「利用」という文言が入る。修正させていただく。</p>
<p>松 岡 委 員</p> <p>三 富 課 長</p>	<p>資料 1-3 7 ページ「第 4 節 2 施策の設定」について</p> <p>「(2) 低炭素社会の創造」内に「地域の特性を最大限活用し、」とあるが、地域の特性とは何か。この内容では低炭素社会の実現に向けた取り組み内容をイメージできない。</p> <p>地域の特性は田園環境であると考えている。先ほど説明したバイオマス資源のエネルギー利用などを低炭素社会の創造に向けた地域資源として想定している。説明が足りないので追記させていただく。</p>
<p>田 辺 委 員</p> <p>小 林 係 長</p>	<p>資料 1-3 6, 7 ページ「第 4 節 2 施策の設定」について</p> <p>「(1) 環境教育と協働の推進」内に国際協力の文言はあるが、近隣市町村などとの連携についての記載がない。近隣市町村との協働による取り組みも必要ではないか。</p> <p>ご指摘のとおり、近隣市町村との連携についても追記させていただく。</p>
<p>原 田 委 員</p>	<p>資料 1-3 5 ページ「第 3 節 4 環境の範囲」について 資料 1-3 14~16 ページ「第 5 節 2 環境の現状」について</p> <p>「環境が示すもの」の中に、「農業環境」が入っていないように感じる。施策の展開においても田園環境を謳っている中で、この項目を入れたほうが良いのではないか。また、「環境の現状」に現行計画の評価と課題があるが、これだけでは足りないのではないか全体の取り組み状況が見えるような説明が必要ではないか。</p>

<p>三 富 課 長</p> <p>千 葉 会 長</p> <p>原 田 委 員</p> <p>三 富 課 長</p>	<p>「農業環境」については、「自然環境」や「都市環境」の中に含まれるのが、記載の方法については検討させていただきたい。</p> <p>「環境の現状」には、現行の環境基本計画において定めた指標を並べて記載しているが、意見を踏まえ、説明を追加させていただきたい。</p> <p>「農業環境」の項目について、新たに他の範囲と並べて項目を追加するか、又は項目の中に文言として位置付けるか、どちらが適切か。</p> <p>施策などで田園環境を謳っているので、環境の範囲に文言が出てこないことに違和感があっただけなので、文言として記載されていればどちらでも問題ないとする。</p> <p>「田園と都市が織りなす環境健康都市」を目指す都市像に位置付けており、田園環境を環境の範囲の項目として特出させることも可能かと考えるが、内部で検討させていただきたい。</p>
<p>中 平 委 員</p> <p>三 富 課 長</p> <p>中 平 委 員</p>	<p>資料 1-3 5 ページ「第 3 節 4 環境の範囲」について</p> <p>「農業環境」が要素に含まれているのであれば、「産業環境」も含まれているということではいか。新潟市の現況に記載されており、「計画の基本的視点」に地域経済への貢献という文言がある中では、「産業環境」も含まれているべきである。</p> <p>「産業環境」は生活環境の項目で含まれていると考えている。</p> <p>第一次産業である農業が「農業環境」として環境の範囲に含まれるのであれば、第二次、第三次産業も含めた「産業環境」も環境の範囲に含まれると考える。生活環境の中に含まれるということによいと考えるが、定義を整理しておいていただきたい。</p>
<p>池 主 委 員</p> <p>松 田 部 次 長</p>	<p>資料 1-3 8 ページ「第 4 節 3 施策の大綱」について</p> <p>「新潟市環境基本計画 施策の大綱」「快適な生活環境の保全」「(5) 環境保全のための事前配慮の推進」内の「②小規模開発による事前協議」の意味が分からない。</p> <p>「②小規模開発における事前協議」の誤りである。訂正させていただく。</p>
<p>皆 川 委 員</p> <p>千 葉 会 長</p>	<p>資料 1-3 5 ページ「第 3 節 4 環境の範囲」について</p> <p>資料 1-3 8 ページ「第 4 節 3 施策の大綱」について</p> <p>自然環境は新潟が誇る魅力であり、市民アンケートの結果を見ても自然環境に関する市民の関心が高いように感じられる一方で、自然環境に対する施策の展開が見えにくい。生物多様性の保全に際しては、その基盤となる自然環境も重要な役割を担っていることを踏まえ、計画に反映させていただきたい。</p> <p>「環境の範囲」に記載されている「自然環境」は、生物の教科書から持ってきたような内容になっており、政策として考えた場合には新潟の自然の要素があった方が市民にとっても分かりやすいのではないかと考える。</p>

三 富 課 長	<p>ご指摘のとおり、「自然環境」には、市民が親しむ自然環境という切り口も必要と考えるので、追記させていただきたい。</p> <p>施策に定める「生物多様性の保全」と「自然環境」はセットで考えなければならないと考えている。「生物多様性」の文言を打ち出し過ぎているとも考えられるので、記載内容について検討させていただきたい。</p>
< 議 題 2 >	<p>新潟市環境基本計画（素案）第2部「基本構想」について</p> <p>【資料2-1から資料2-3に基づき説明】</p>
波 多 野 委 員	<p>「環境教育と協働の推進」について</p> <p>「環境ひとづくり」の意味が分かりにくい。</p>
小 林 係 長	<p>「環境について考えていくひとをつくる」という意味で「環境ひとづくり」という文言を使っている。言葉については再考させていただく。</p>
菅 井 委 員	<p>「低炭素社会の創造」について</p> <p>エネルギー施策との兼ね合いもあるので、環境審議会だけでなく、他の市の部署とも連携しながら作成していくべきである。</p>
三 富 課 長	<p>全庁的な取り組みとして進めていく項目であるため、ご指摘のとおり他の部署とも連携しながら作成している。</p>
菅 井 委 員	<p>「快適な生活環境の保全」について</p> <p>「おいしい空気ときれいな水」の「おいしい」は、「空気」と「きれいな水」の両方にかかるのではないか。</p>
志 賀 委 員	<p>「生物多様性の保全」について</p> <p>「生物が生き生きとしている」とあるが、「生き生き」の意味が分からない。また、「持続可能な発展を遂げているまち」で終わっているが、ここでは生物多様性の保全についての言葉で終わるべきではないか。</p> <p>8年後のまちの姿に「食と花が」とあるが、イメージしづらい。どういったものをイメージしているか。</p> <p>施策の展開内に「(1) 在来の動植物の生息・生育環境の保全・再生」とあるが、「再生」についての記載がない。</p>
三 富 課 長	<p>「保全」「保護」についての文言の整理を行ったうえで、ご指摘の「生き生き」や「持続可能な発展を遂げているまち」の文言を再検討させていただきたい。</p> <p>「食と花」については、本市が誇るブランドイメージとしての「食と花」のことであるが、言葉足らずであるため、説明を加えたい。</p> <p>「再生」の項目についても、抜けていると思われるので、修正させていただきたい。</p>

志賀委員	施策の説明に関して、「利用」や「発展」といった文言が多いように感じるが、「保護」の観点からの記載についても検討いただきたい。

	「生物多様性の保全」について
千葉会長	8年後のまちの姿に記載する「市民が『食と花』を通して、農業や生物多様性の大切さを認識しています。」という項目に関して、「食と花」が生物多様性にそぐわないように感じる。他の施策に位置付けることはできないか。
三富課長	「快適な生活環境の保全」の項目にもかかってくる要素だと考えられるが、検討させていただきたい。

	「環境教育と協働の推進」について
竹石委員	国際協力の推進に関して、韓国との連携がないので、記載をお願いしたい。
三富課長	「国際協力の推進」に関して、記載内容が限定的であるので、いただいた意見を踏まえ、修正したい。

	「低炭素社会の創造」について
古島委員	「バイオマス資源の持続可能な利用」において想定されているバイオマス資源とは具体的に何か。 また、「未利用エネルギーの活用の推進」において想定されている未利用エネルギーとは具体的に何か。
三富課長	バイオマス資源としては、秋葉丘陵などにおける里山の間伐材や、もみ殻、海岸の保安林で松喰いの被害木、家庭から出る剪定枝、枯草などを想定している。 未利用エネルギーとしては、下水熱や下水汚泥をイメージしており、下水汚泥の活用については、中部下水処理場において発電事業の実証試験を行っている。また下水熱を利用して歩道の融雪に活用することなどを検討している

田辺委員	施策の視点で述べている超高齢化への対応が施策にどう反映されているかが見えにくい。 施策の展開について協働のパートナーが「○」で記載されているが、記載の有無の定義づけが明確でないのではないかと考える。見直しが必要と考える。
千葉会長	8年後の新潟市の状況を考えた時に、超高齢化が進む中で将来を担う若者がどの程度いるのか把握しておかなければならないという思いから、第1回の会議の際に超高齢、人口減少の課題を視点を踏まえるようお願いしている。
三富課長	超高齢化への対応について、資料1-3で示している「計画の基本的視点」に記載されている「(2) 市民や事業者とのパートナーシップ・連携の深化」と「(3) 超高齢社会、人口減少社会などへの対応や、地域経済への貢献」との順序を逆にすると理解いただけ

	<p>るのではないかと感じた。超高齢社会に対応していくためには、市民・事業者とのパートナーシップが必要であるという説明の方が理解しやすいので、修正させていただきたい。</p> <p>超高齢社会に対応する具体的な施策としては、高齢者の移動手段を確保する公共交通の再構築があり、低炭素社会にも寄与することから、「低炭素社会の創造」の項目に位置付けている。</p> <p>協働のパートナーの項目への記載については、定義づけも含めて、整理させていただきたい。</p>
	<p>-----</p> <p>「環境教育と協働の推進」について</p>
中 村 委 員	<p>「環境教育と協働の推進」が他の施策の土台として位置付けられているが、「環境教育と協働の推進」という施策が、他の施策にどのように貢献したかがわからない場合が多いので、具体的に取り組みの効果がどの施策の結果に影響したかがわかる形での評価をしていただきたい。</p>
三 富 課 長	<p>低炭素社会の創造で言えば、新潟市は運輸部門と家庭部門の CO₂排出量が比較的高い傾向にあり、環境教育等の推進による結果として、家庭部門の CO₂排出量の削減が図られるということが考えられる。また、循環型社会の創造に関しても、3Rの推進により燃やすごみの削減が図られるということが考えられる。これらの結果を環境教育の推進による結果として、導き出していきたいと考えている。</p>
中 村 委 員	<p>低炭素社会に関する環境教育の推進には、具体的にどのような施策を考えているか。</p>
三 富 課 長	<p>環境教育については、これまでもイベント実施や講座の開設などを行ってきており、波多野委員におかれては講師として、省エネなど、環境教育にご尽力いただいている。市としても新たな環境教育の施策を打ち出したいと考えており、エコアクションの実施によるインセンティブの付与をするようなポイント制度の仕組みを考えている。</p>
	<p>-----</p> <p>「低炭素社会の創造」について</p>
池 田 委 員	<p>農業関連の課題の最も大事なことは、農業の経営基盤の強化であると考えており、これがあってはじめて農業環境の改善が図られると考えている。農業の経営基盤の強化に係る施策について検討いただきたい。</p>
三 富 課 長	<p>頑張る農家支援事業や、環境負荷の少ない肥料の利用促進などに取り組んでおり、また農業特区の指定も受けているので、農業経営基盤のさらなる強化を図っていきたい。</p>
	<p>-----</p>
中 平 委 員	<p>今後、人口のうち高齢者の割合が多くなる中で、高齢者も担い手としてイメージした施策の実施など、8年後の将来人口推計による年齢構成の予測を踏まえた施策の展開が必要である。</p>
浦 野 委 員	<p>超高齢社会の対応として、地域包括ケアが必要である。現在、中学校区域単位で支援センターを設け、地域で診るということを考えている。現在の核家族化された社会では、</p>

	<p>家庭ごとでの介護が難しく、行政や医師会が入った在宅介護を進めていく必要があり、その推進のためには元気な高齢者を増やすことが必要で、楽しんで街中を歩けるような社会づくりが必要であると考えている。</p>
<p>三 富 課 長</p>	<p>健幸都市(スマートウェルネスシティ)の推進を市の施策として大きく打ち出している。この取り組みの主眼として、市民にまちを歩いてもらうということを重視しており、歩いて健康になっていただいて、健康寿命の長い人生を送っていただくということがコンセプトになっている。ハード面の整備だけでなく、市民一人ひとりの意識づけと併せて推進していきたいと考えているので、先ほどお伝えした市民活動によるポイント制度の創設なども併せて推進していきたいと考えている。</p>
<p>中 平 委 員</p>	<p>「健康」という言葉は「健康を害さない」という意味でとらえていたが、「健幸」という言葉は「健康を作る」という意味で用いるのであれば、「健康づくり」としての「健幸」についても、もっと盛り込んでもいいのではないかと感じた。</p>
<p>三 富 課 長</p>	<p>「低炭素社会の創造」に位置付けているが、いただいた提案を踏まえ、本文に反映させていただく。</p> <p>【議事終了】</p>